



駒澤会だより

第28号

2017年12月18日
駒澤大学駒澤会発行



花はただ咲く

総長 池田魯参

駒澤会の皆様には、ご子女を卒業させ幾歳月を経ても変わらず、駒澤大学の行く末に期待を寄せ、日頃から学生支援等何かとご愛顧、ご後援賜わっておりますこと、教職員一同、心から感謝申し上げます。

待ちに待った130周年記念棟（通称種月館）は、ご案内のように12月に完成し、その後、館内の機器備品等の備え付けを終え、3月16日に落慶記念式典を催す運びとなりました。

学生諸兄姉は、30年度学期始めから、新しい荘麗な学舎で存分に学び語らうことができ、のびのびとキャンパスライフを楽しむことができるでしょう。私共教職員も心一つにして駒澤大学のさらなる進展を誓い、大学の明るい未来を思い描いているところです。

9月30日、大雄山最乗寺での平成29年度駒澤会秋季研修会ではお世話になりました。

「マインドフルネスから只管打坐（ただすわる）へ」というテーマで、本学の建学の理念のありようをお話したのですが、充分ご理解頂けたか心配です。皆様のむずかしいお顔をチラチラ思い浮かべながら帰路についたことでした。

帰宅して当日（9月30日）の読売新聞夕刊紙を開くと、「生老病死の旅路・養老孟司さん—自然にまかせ意味を求めない—」という見出し句が目に入りました。養老さんはこうおっしゃっています。

意識だけが人間のすべてと思う「脳化社会」では、頭ですべて理解しコントロールできると思ってしまう。すると理解を超える生老病死は、もはや、なくていい「ノイズ（雑音）」になってしまう。（中略）人生の三分の一にあたる睡眠時に意識はありませんね。その時も体は黙って心臓を動かして呼吸しているのに、自分で体を動かしていると思っている。眠りに入るときも目覚める時も、自分の主体性はない。

と明言され、「意味のないものを許容できない社会は怖い」「自然は意味のないものだらけ」「細胞が数十兆もある人体を、分かると思っているのが間違いなのです」と語っておられました。

長い間、駒澤大学で坐禅の指導をなさった沢木興道先生、酒井得元先生、鈴木格禅先生から、私が学生時代から繰り返しお聞きした話と全く同じ趣旨です。坐禅の功德でそのことが一層リアルになる道理です。

本学に学ぶ学生諸兄姉には何としてもこういうスケールの大きい人間観、人生観を養って欲しいと、私は願っています。

奨学金授与式について

目的：学業奨励
対象学生：学部2年生以上
総額：400万円（一人20万円×20人）

昭和57年に、「駒澤大学駒澤会奨学金給付規程」が制定され、駒澤会奨学金が誕生し、現在は20万円×20人、年間400万円を給付しております。給付者は平成29年度で発足以来1125人に達しました。

平成29年7月に駒澤会奨学金授与式が長谷部学長、森屋会長、田中副会長が出席のもと行われました。

森屋会長より奨学金決定通知書を学生ひとりひとりに手渡されました。その後、学長より、駒澤会へのお礼が述べられ、学生達へ激励の言葉がありました。また、森屋会長より駒澤会の紹介があり、学生達への祝辞が述べられました。

授与された学生達も感謝の言葉を述べていました。

奨学金を受給された代表3人の決意と感謝の声を掲載します。駒澤会で応援を続けていくことの原点を再認識し、今後も協力しあいましょう。



受給生の言葉



文学部英米文学科
4年 金井 巧介

この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。私は今年度合わせ、3年間連続となる採用で、入学以来の勉学への取り組みを評価していただいたことを大変名誉に感じております。駒澤会の皆様を始め、お世話になっている全ての方に厚く御礼申し上げます。

大学4年として私は、自らの将来と向き合い、様々な可能性に思いを馳せています。残念ながら私の志していた業界や企業様とは縁がありませんでしたが、これまでの成果や経験が私に力を与えてくれています。学業や部活動、アルバイト、それぞれに色んな出来事や壁があり、それを乗り越えてきたからこそ、今の自分が居ます。

入学前の自分と今の自分、何が変わったのか、一言でいうならば『食欲さ』です。「言い訳を用意して出来ない」ではなく「やる為にはどうすればいいのか」を考えて行動することが出来るようになりました。6人家族の末っ子であり、双子の片割れである私は、貸与型奨学金を利用して駒澤大学に入学しました。本来であれば、部活動をする金銭的余裕はなく、アルバイト代で学費の不足分を補填していくはずでした。しかし、こちらの奨学金の存在を知り、全てを成立せんが為に限られた時間を上手く利用しました。2年次の採用通知を受けた際にホッとしたことを今でも覚えています。金銭的な余裕と共に、アルバイトの時間的負担が軽減されたことで、より生活が充実し、彩り豊かなものとなりました。

こちらの奨学金のお陰で、私の大学生活は胸を張れるものとなりました。得難い経験と成長の機会を提供してくださった駒澤会の皆様、関わりのある皆様に再度御礼申し上げますと共に、自分を信じ、これから先を歩んで参りたいと思います。

受給生の言葉



文学部地理学科
地域環境研究専攻
3年 亀山 史紀

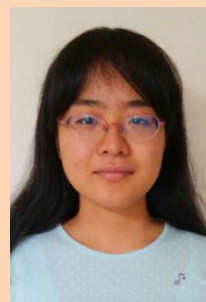
この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。今までの学業の成果を評価いただいたこと、大変光栄に思います。

私は駒澤大学に入学して以降、まず第1に学業に力を注ごうと取り組んできました。ただ、勉強はあまり得意ではないので、私が専攻している学問のみならず、英会話を課外講座で受けるなどして、「学び」を楽しみ、絶えず「学び」を続けようとしてきました。そして現在、私は大きく分けて2つのテーマを持って学業に励んでいます。まず、1つ目は大学で専攻している地理学において、台風の解析を行っていることです。これをテーマとして掲げている理由は、近年の異常気象、特に台風は例年に見られない進行経路や勢力であることから、強い関心があり、私も大学在学中に調査することで、今後自分自身の生活、さらには社会の中の防災に役立つような結果をもたらすかもしれないと感じたからです。

2つ目は公務員試験に向けて対策していることです。2年次から少しずつ学習を開始し、現在は予備校にも通い本格的に学習しています。進路について考えることは、期待と不安が常に存在しますが、今やれることに精一杯取り組んでいこうと思います。

このような「学び」を続けるためには、どうしても多くの費用が掛かってしまいます。そこで本制度でいただいた奨学金を充てることで、経済的にゆとりを持って、学業に励むことができます。駒澤会の方々には言葉に表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。また、今回奨学生として選んでいただくまでに、駒澤大学の教職員の皆様、ともに生活する家族など、多くの方々に支えられて学業に取り組むことができました。こうして支えてくださるすべての方への感謝を忘れずに、社会に出たら恩返しできるように、これからも「学び」を続けていこうと思います。

受給生の言葉



経済学部経済学科
2年 吉田 宏子

この度は駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。この1年間の努力を認めていただいたことにとっても恐縮しております。

私は駒澤大学に入学した時、当時の学部長であった姉齒教授の「大学は友達を作るところではなく、勉強をするところです。学ぶ中で出来た友人こそが真に一生の友達となるのです。」という言葉に深く感銘し、それ以来勉学に励んで参りました。会話を楽しむことよりも、真剣に何かを学ぶことに集中する日々は、厳しいながらも楽しさがありました。元々興味があった経済学に加え、苦手意識があった近代史などの歴史分野も大学で学び直すことでその面白さに気づくことができました。また、学生生活を過ごす中で精神的に辛いこともありましたが、「現在はどんな状況か」「その原因は何か」「どうすれば原因をなくせるか」など仏教の四諦説を学んだことで冷静に分析し、困難に向かうことができました。

1年間努力を続けられたのは、教えていただいた先生方、そして勉強する機会を作ってくれた家族のおかげだと感じております。奨学生として採用されたことで、家族の負担を軽くできることをありがたく思います。奨学金制度を支えてくださる駒澤会の皆様に、あらためて感謝申し上げます。

経済学を学び始めて1年以上が経ち、入学前に比べれば理解できることは増えたものの、勉強不足を感じる日々でもあります。奨学金受給生となり、その責任を強く感じておりますが、奨学生として恥じぬように、そしてこのご恩を社会に還元できるように、これからも更に努力いたします。



教育後援会との懇親会報告



広報部副部長 齋藤 和子

恒例の教育後援会との懇親会が、8月24日19時より新橋にある新橋亭にて開催されました。昼間の猛暑そのままの、むっとする熱帯夜でしたが、新橋亭の中は、涼しく快適で、爽やかな中での懇親会となりました。

三崎副会長の進行により、初めに森屋駒澤会会長から、「教育後援会卒業の方々に入会して貰うことで、駒澤会をより盛り上げて行ってほしい。」というご挨拶が有り、それに対して正田教育後援会会長から、「今までには入会の無い時代もあったらしいが、これからはお互い協力し合ってやって行きたい。」との、お言葉が返され、駒澤会と教育後援会の絆が深まる誓いが交わされる形となりました。

平島教育後援会副会長の乾杯で歓談がスタートし、お酒が入ると共に、賑やかな宴席となっていました。

途中教育後援会副会長方の自己紹介では、堀駒澤会総務部副部長が、自分の高校の後輩であるという、大山教育後援会副会長を明るく紹介し、場を盛り上げてくれました。

後半、赤堀監査の駒澤会各委員の紹介のお陰で、和やかな雰囲気になり、教育後援会、駒澤会の区別なく、より一層の一体感を感じる事が出来ました。

締めのご挨拶を一戸副会長がされる頃には、終わるのが名残惜しく感じられる、余韻の残る実りある懇親会となりました。



教育後援会と駒澤会の懇親会に参加して



教育後援会総務部部长 山本 久美子

このたびは駒澤会からお誘いをいただき、平成29年8月24日（日）新橋にある「新橋亭 新館」での教育後援会と駒澤会の懇親会に参加させていただき、ありがとうございました。

初めての参加で緊張気味であった私に、駒澤会の皆様は本当にお優しく、色々話しかけてくださり、楽しい時間をご一緒できましたこと、皆様のお心遣いのおかげと感謝いたします。

駒澤会も総務部、広報部、厚生部と各部に分かれ活動されていて、研修会や新年賀詞交歓会等もあり、会員の皆様と親睦を図られている事もお伺いしました。素敵な会ですので、駒澤会の皆様とのご縁も大切にしたいと思っています。

これからも駒澤会の益々のご活躍をお祈りいたします。



入会勧誘のお願い

駒澤会は学生への奨学金支給を継続するため、入会勧誘活動を継続しております。しかし、近年は入会者が減少しており、収支において支出超過が続いております。ぜひ会員皆様にも勧誘活動のご協力をお願いいたします。お知り合いで駒澤会に入会をご希望される方がいらっしゃいましたら、駒澤会事務局までご一報をお願いいたします。

駒澤会秋の研修会報告



総務部 軽部 雅美

平成29年9月30日（土）～10月1日（日）神奈川県南足柄市大雄山最乗寺にて開催された研修会に参加しました。講師として、駒澤大学池田魯参総長先生が来られました。

今回の研修先が、最乗寺と案内を頂き、「どのようなお寺なのか？」とネットで調べましたら、永平寺・總持寺に次ぐ曹洞宗の名刹で、おすすめパワースポットと書かれているものを拝見しました。私の趣味は、御朱印集めでこの機会を逃すことができないと思い、参加させて頂きました。私は、車の運転が大好きで、最乗寺に車で向かい皆さんと合流致しました。

最乗寺の境内は、とても広く数々のお堂、滝や川が流れていて、大きな杉に囲まれ、350段余りの階段を登り、十一面観世音菩薩が祀られている、奥の院までの道のりがとても大変でした。奥の院に行くまでに、天狗像や大小数々の高下駄、湧き水と散策するには、本当に見どころ満載で立派なお寺でした。沢山のマイナスイオンを浴びて、すごく癒されました。

私は、お寺で頂く精進料理は、初めての体験でした。池田総長先生より、五観の偈を唱えてからいただきました。炊き込みご飯・お汁・野菜の和え物・お新香と素材の旨みがでていて、どれも美味しく残さずに頂きました。木村部長から、食べ方や片付まで、お作法があると伺いとても興味をもちました。

池田総長先生の講義は、「マインドフルネス」から「只管打坐」へでした。坐禅をする目的として、マインドフルネス・マインドフルヨガとは、仏教的要素を除いた自分を変える気づきの瞑想法として流行。グーグル・インテル等企業の研修で取り上げられている。道元禅師の「只管打坐」は、ただ坐るとし、『無所得無所悟』いかなる目的も持たない。總持寺を開山した瑩山禅師は、「只管打坐一切不為」と定義し、鈴木格禅駒澤大学名誉教授の説は、人間をやめること。先生の講義は、終始にこやかで分かり易く、「衆生本来仏なり」と最後に話されたお言葉が、まるで、お釈迦様がお話しされているようで、すごく印象に残りました。

池田総長先生、事務局岡田さん、下見をして準備された厚生部の皆様に心よりお礼申し上げます。皆様と楽しい時間を有意義に過ごした研修でした。ありがとうございました。





駒澤会秋の研修会に参加して

大枝 和子

9月30日、JR小田原駅で駒澤会の方々と合流し、大雄山最乗寺へ行って参りました。日頃あまり歩かないので今回境内山林の階段を沢山歩いたのはよい運動になりました。翌10月1日、4時起床、坐禅の場所へ案内されました。鐘が始まりの合図。しばらくすると腕が重いと感じて来て、背中丸くなり、手の卵形はくずれ、まぶたは閉じてしまい、気付くたび直すものの、姿勢を維持する筋力が無いと、我が身体の弱点ばかり考えている内に坐禅のひとつきは終了致しました。こんなぐだぐだな私ですが、研修1日目に総長先生が講話の中で、「どんなにいやでも、どんなに悲しくても、そういうものを丸抱えして坐る」とおっしゃっていたので、雑念だらけの坐禅でも問題無いよとお許しいただいたような気持ちになっております。現実には全て受け入れ黙って抱える、元気出して行こうと思います。坐禅の後、本堂での御勤めを見学、御真殿へも上らせていただき、それから朝食を頂戴し、作務を体験させていただいて下山となりました。

研修会終了後には小田原城散策が企画されていて、参加致しました。シアター上映に展示物、見ごたえがありました。特に展示物は小田原北条氏領国のあちこちの城で出土した資料を10月1日から12月24日までの期間限定特別展として、小田原城に集めて展示しているとの事で、各地の資料館等で大切に保存されて来た品を一箇所で見ることができ、幸運でした。天守最上階からの展望も良かったです。

温かくとても楽しい駒澤会の皆様、この度は大変お世話になり、ありがとうございました。



会員紹介 吉田 洋一さん



今回の会員紹介は駒澤会総務部副部長として現在ご活躍されている吉田洋一さんを紹介します。吉田さんは2004年に駒澤会へ入会、その後総務部に所属され部長・副部長を経て、監査を6年務められました。そして、2014年に総務部に復帰し副部長に就任され現在も務めておられます。

—お仕事は。

29歳のときに会社をつくって、30歳のときに実際に動き出しました。仕事内容は海外に医療機器の部品を輸出し、現地の顧客が組み立てて製品化しています。

—使用する外国語は。

英語とスペイン語です。会社を始める前からビジネスで活かせるよう勉強していました。そして、使用しているうちに少しは上達して話せるようになっていきました。今では海外へ営業にも行っています。

—大変そうな仕事ですがご体調は。

駒澤会総務部長をしている時に病で入院しましたが、現在は回復して元気に過ごしています。

—お子さんは。

子供は3人います。3人とも駒澤大学に入学しました。駒澤大学は仏教の大学として魅力的ですし、学費も安く自宅から通いやすかったようです。長男は法学部法律学科、次男は文学部社会学科、三男は経営学部経営学科に通いました。現在はそれぞれ社会に出て各方面で頑張っています。

—お孫さんもいらっしゃるんですか。

はい。

—では、お孫さんも将来、駒澤大学へ入学する予定ですか。

それはわかりません。(笑)

—駒澤大学に期待することは。

教育後援会委員をしているとき、部活動の祝賀会が沢山あり子供の通っている学校ながら、自分の卒業した学校のように嬉しく思い参加していました。現在は多くの大学が部活動強化をしてきており、優勝することは難しくなっているようですが、これからも各部の活躍を楽しみにしています。

—駒澤会の魅力は。

子供が卒業した後も親が駒澤大学に関われるところです。こういう会は他の大学にはなかなかないですから。教育後援会の頃から現在の駒澤会まで様々なご縁ができて嬉しいです。

インタビュー所感

吉田さんは現在、総務部副部長として会の運営を支えていただいています。また、以前には監査をお務めになり、経営者の視点からの的確なご意見を頂戴し資産管理をしていただきました。吉田さんは奥様とご夫婦で駒澤会に入会され、ご夫婦で各行事に参加なさっておりました。家族全員が駒澤大学と関わりがあり、吉田さんのご家族にはこれからもずっと駒澤会と駒澤大学の力強い応援者でいていただけることでしょう。



大谷哲夫 駒澤大学元学長・元総長の東北福祉大学学長就任と喜寿を祝う会

平成 29 年 8 月 31 日、東京ステーションホテルに於いて 150 名の皆様が集まり、盛大に大谷先生の東北福祉大学学長就任を寿ぎました。

琴の演奏で始まった会は、発起人の 1 人である曹洞宗宗務総長釜田隆文氏より大谷先生との永平寺同安居からのご縁を語られるご挨拶があり、駒澤大学学長長谷部八朗先生は大谷先生のお人柄を感謝で語られました。また、都留文化大学学長福田誠治氏、愛知学院大学学長佐藤悦成氏、東北福祉大学副学長大竹榮氏のご挨拶がございました。国際（日中）禅文化交流協会に於いてもご活躍の大谷先生の為、中国大使館一等書記官の邵宏偉氏も御出席され、「自利利他円満の仏教の教えの心」を大谷先生から学んだと述べられました。中国本土より安国寺僧侶も出席されておられました。また、乾杯のご発声は駒澤会森屋正治会長からありました。

会場には多くの中国僧侶から送られた書画が飾られ、会は和やかに進みました。

最後に大谷先生より発起人、出席者の皆様への感謝の気持ちが語られ「ご縁を大事にしなければならぬと思う。」と述べられ、また「東北福祉大学の学生がとても素直で礼儀正しい。」と、就任しての充実ぶりを示してくださいました。

駒澤会では先生には時には叱咤され、時には励まされて、長い間見守っていただいていたまいりました。会員一同大谷先生の長寿を願い、益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申しあげたいと存じます。
(駒澤会相談役 高見 静子)



入会者芳名

駒澤会にご入会いただきまして感謝申し上げます。

ここにご入会いただいた皆様のご芳名を掲載いたします。

* 今回の発表は平成29年7月1日から平成29年11月末日までにご入会いただきました方を対象としております。

* 対象期間にご入会いただいた方のうち、本紙への掲載について、同意をいただいた方のみ掲載（不同意の方と連絡が取れなかった方は匿名）とさせていただきます。

青木 薫久 様	木村 弘志 様	工藤 康則 様
栗原 賢一 様	庄司 啓子 様	楯 勇己 様
林 美麗野 様	両角 晃一 様	吉川 哲子 様
		匿名 5人

駒澤大学近況報告

◎開校130周年記念棟高層棟完成間近！！

開校130周年記念棟（種月館）の工事が順調に進んでいます。平成30年4月からの高層棟利用開始に向け、工事は最終段階に入っています。建物内には新しい学食が入り、メニューも新しく、更に広くなり魅力的な学食へと生まれ変わります。



工事現場写真（平成28年12月撮影）



（平成29年12月撮影）

◎駒澤大学硬式野球部1部リーグ復帰

駒澤大学硬式野球部が東都大学硬式野球リーグ戦秋季2部リーグで優勝し、11月5日・6日に1部2部入れ替え戦を日本大学と行いました。その結果、駒澤大学が2連勝し1部リーグ復帰が決定いたしました。東都大学野球リーグは、春季リーグは4月上旬より、秋季リーグは9月上旬より神宮球場にて試合が行われます。皆様ご声援をお願いいたします。

◎駒澤大学附属苫小牧高校野球部 秋季北海道大会で優勝

駒澤大学附属苫小牧高校野球部が秋季北海道大会で優勝しました。そのため、平成30年3月23日に開幕する第90回記念選抜高等学校野球大会に出場する予定です。甲子園で駒苫旋風が起こりますよう皆様ご声援をお願いいたします。

各部入部のお誘い

会員の皆様へ

会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。

会の運営を3つの部に分かれて担当して頂くこととなりますが、近郊の方又は遠方でも2～3カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。

皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：岡田までご一報ください。

TEL：(03) 3418-9189 FAX：(03) 3418-9190

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所などを考え活動しています。

基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして 会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	4月～11月までの利金	備考
野村証券	38,249円	みずほ・三菱UFJ社債
みずほ銀行	18,071円	定期・普通預金利息
世田谷信用金庫	5,087円	定期・普通預金利息
合計	61,407円	

基金管理委員長

編集後記

これまで『入院・手術』には全く無縁できました。学生時代から続けている運動が生活の一部となり健康管理・体力維持に役立っているのが、生涯『大病』せずにいられると思っていました。それが今年になって癌が見つかり4月に入院手術。それから堰を切ったように不具合が発生、11月までに3度の手術を繰り返しました。2度目の手術「腸閉塞」は癌の手術の2日後に病床で併発。水も食物も一切禁じられて20日間点滴だけで療養しましたが快方に向かわず、結局は開腹手術したのです。

病室の窓から見える風景は、バスが走りトラックやタクシーが行き交い、人々が元気で活動している波動が伝わってきます。“あの人達は何の不安もなく食べ・飲み・排出し、一日の仕事の疲れで夜は心地良い眠りに誘われているのだろう”・・・思うだけで羨ましが込み上げておりました。

その時初めて“健康でいられたのは親から丈夫な体を貰い、健康第一に育てられたから”と思い至ったのです。自分一人の努力だけで健康でいられたと思っていたのは傲慢な考えだったと気付けたのです。こんな考えが浮かぶのも道元禅師の教えに触れる機会のある駒澤会で活動している果報の故かと思いません。み仏が“病を通して道を見いだせと”諭して下さったのでしょうか。（広報部副部長 村田 保廣）

事務局からのお知らせ

大学行事予定

12月23日～1月4日
冬期休業（全学休業）
2月4日～8日 2月一般入学試験
3月7日 3月一般入学試験
3月23・24日 卒業式

駒澤会行事予定

1月 3日 箱根駅伝応援企画
1月20日 役員会
2月12日 駒澤会新年賀詞交歓会
3月10日 役員会

駒澤会だより 第28号

発行日：平成29年12月18日
発行者：駒澤大学駒澤会 広報部
154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1
TEL：(03)3418-9189
FAX：(03)3418-9190

駒澤会ホームページ<駒澤大学HP内>

<https://www.komazawa-u.ac.jp>
→ 在学生父母の方をクリック
→ 駒澤会をクリック

駒澤大学
駒澤会

